不死身の実験体No.004の日常生活

デミグラようた

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

不死身の実験体Ｎｏ．００４は、ある日自殺を試みた・・・そしたら死んだと思ったと同時に、あることにきづいた・・・それが、自分が亜人だということに、、だ・・・自分は死んだと思っていたＮｏ．００４は、その後世界に知られ、世界から追われる羽目に・・・そして実験の毎日で、殺されることに、１度は逃げ出そうとしたが無理があった…助けを待つしかなかったのだ・・・そんなＮｏ．００４は今後どうなるのか必見です！

目　次

～殺される毎日～実験1回目～　―　1

～殺される毎日～実験１回目～

皆さんは亜人(実験体)をご存知でしょうか？この亜人(実験体)は国・・・いや世界が欲しがっている実験体で、特徴は不死身で叫ぶと金縛り(呪い)になるのが特徴的である。これを業界では「呪い」と呼んでいる、また亜人(実験体)は細胞分裂が非常に速く、細胞の数も多く。回復の速度が早いのが特徴的である。そしてこの世界には亜人(実験体)の数が日本で４体、世界で５０体といる。皆がこの亜人(実験体)を求めて探し当て、実験体としている。いまは開発途中だが、細胞分裂時の細胞エネルギーを使い、若さを取り戻す薬を開発途中である・・・先進国の日本は、亜人拷問研究開発が一番進んでいて、それもあり亜人の拷問も過激になっている。日本の研究というのは亜人の実態を知るための研究が多いため、亜人の生命力を知るための亜人無差別殺害実験が一般的だ、今回はそんなかわいそうな亜人の主人公のＮｏ．００４の話をしよう。Ｎｏ．００４は、２４歳の時に駅で自殺をはかったが、その時ふっとんだ肉片が集まってよみがえり亜人だと分かった。その後国におわれ。逃げたもののにげきれずに国民につかまった。そして拷問を受け続けた・・・そして今に至るのだ。今回はその拷問の様子を見てもらおう。

～場所・時刻不明～

Ｎｏ．００４「ンー!!!ンー!!!」どうやら口をふさがれ身動きが取れない様子
研究員「みんなの為・・・この世の為・・・世界のためだ!!!」そういうと亜人の身体に毒液を投与した。
Ｎｏ．００４「ゲボ・・・ブシャ・・・」そう言うと血をふき倒れるＮｏ．００４そして亜人研究の調査員がこう言った
調査員「けっ・・・きたねえもん見ちまったぜ・・・研究員、超高濃度アルカリ性水溶液の濃度はなんだね。」
研究員「はい！１０００ｐｐｍ（ＰＬ）です！」
調査員「そうか・・・よし、死亡から蘇生の計測時間、１０．２５秒！」
Ｎｏ．００４「はあ・・・バタッ・・・」そう言うと痛みと苦しさで失神（ギブアップ）してしまったＮｏ．００４・・・
研究員「立ちやがれ!!不死身（亜人）のくせに倒れてんじゃねえ！」そういうと立ち上がるＮｏ．００４
Ｎｏ．００４「んあああああああ!!!!!!!!」そう叫ぶとコンピューターの回路に電圧負荷がかかりショートしていく・・・そして!!調査員たちは金縛（呪い）りにあってうごけなくなると同時にＮｏ．００４の脳裏に家族・友人・実験・研究・地獄と言う言葉がよぎった
幹部「研究データが…亜人の必須データがああ!!」そういうと研究員一同は研究のや

り直しに残念な気持ちになったと同時にもっと過激に実験しようと思い始めた・・・
研究員「くそっ・・・なにしてんだ！お前のせいで実験は台無しだ！まあ・・・お前が自分で自爆したと考えたらすがすがしいがな・・・」そういうと銃Ｎｏ００４に向けた
調査員「やめたまえ。無差別にうつな。」そういうと幹部等もうなずいた・・・
研究員「わかりました・・・ほら！たちやがれ！次は診断だぞ！」そういうと無理やり連れていかれるＮｏ．００４
～おなじく場所・時刻不明～
医療班「はい、投与しますよー」そういうと亜人の血管にはりをいれた。
研究員「先ほどの毒薬を投与させた後の身体データが出ました」そういうと血液濃度や毒素の値、遺伝子データ・ＤＮＡ配列などのデータがある書類を医療班に送った
医療班「やはり遺伝子配列に異常がみられるなあ。。。 赤血球の数も多い・・・ただ、投与したはずのアルカリ水溶液が細胞によって臓器異常は修復され、血管を通り解毒されると…これは細胞の活性化のおかげか？にしても一つ違和感がある…なぜ・・・細胞が活発といえど細胞分裂回数が上限に達しないのはなぜだ…研究員、細胞データはあるか？」
研究員「はい！こちらがＮｏ．００４の細胞データです！」そういうと細胞データを

転送した、そしておなじく基礎データや標準データも送った。
医療班「やはりヘイフリック限界に達している…そして何よりも細胞分裂回数を越しているだけでなく分裂回復するはずのない骨細胞・筋肉細胞・神経細胞が分裂している!!!これは興味深い・・・」そういうと医療班の１人が意見を出した
医療班「研究員、つぎはＮｏ．００４の筋肉部位をそぎ落としできるだけ回復させないために遠くへ運んでくれ、もし自然に細胞ができたら量産化できるかもしれない！後、遺伝子異常のないＮｏ．００３も手術室へ！」そういうと研究員は手術室に運ぶように医療班に指示し、各班員は準備に移った
Ｎｏ．００４「やだ・・・いやｄ！・・・んんん!!!んぐぐぐぐぐ!!!ん…んぅ…」そういうと大声を出させにために口をおさえ睡眠状態に陥らせた。
幹部「各自医療室にて準備及び実験開始！」
～手術室～建物・場所不明～
Ｎｏ．００４「Ｚｚｚ・・・」寝ている様子のＮｏ．００４、この後腕を引き裂かれるとは思いもしないだろう・・・
～実験開始～
研究員「メス入れるぞ…」メスを入れる研究員…色の濃い血液がたらたらと滴る…麻酔はもうしてあるので起きることはないだろう・・・

実験員「・・・切除完了、箱にもいれました！」
研究員「よし！できるかぎり遠くへ運べ！」そういい実験員は車に乗り、出来るだけ遠くへ運んだ・・・その後、Ｎｏ．００４には何かを感じ取った気がした
実験員「こちら研究室より、異変は起きたか？こちらは腕が回復し元に戻った、どうぞ」
研究員「・・・」返答が返ってこない・・・なにかあったのだろうか？
実験員「おいどうした！へんじをしろ！・・・だめだ返事が来ない。。。今すぐ研究員のところへ向かうぞ！いいな？」そういうと車に乗りみな走っていった
～屋外・時刻不明～
実験員「こ、これは!!!!」
～ＥＮＤ～